

第2回 熊本都市道路交通ネットワーク検討会

将来道路ネットワークの創造と役割(案)

令和元年（2019年）10月29日

目次

1. 熊本市の将来構想
2. 熊本都市圏を取り巻く状況
3. 新たな道路ネットワークの創造
4. 新たな道路の役割
5. さいごに

本資料における“熊本都市圏”

熊本都市圏

→5市6町1村※



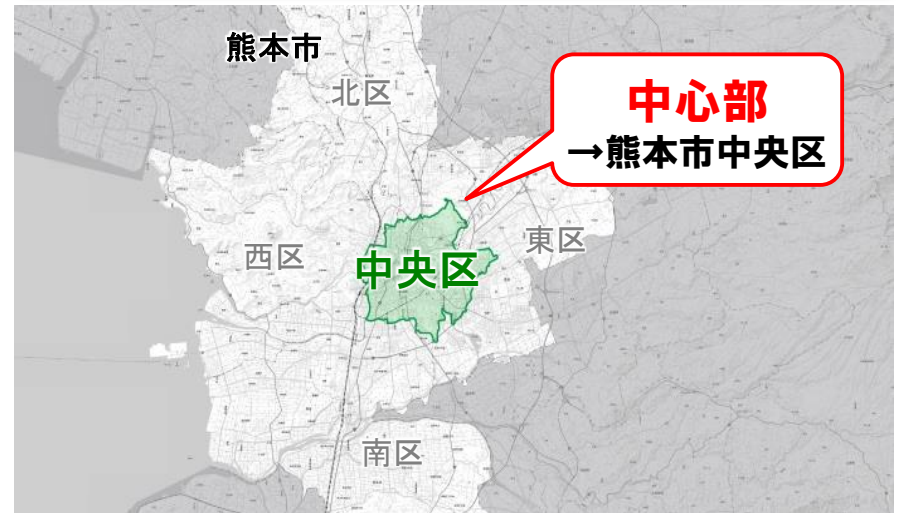
※菊池市は泗水地区のみ、宇城市は不知火・松橋・小川地区のみが熊本都市圏に含まれる

資料: 熊本都市圏都市交通マスタープラン

本資料における“中心部”

中心部

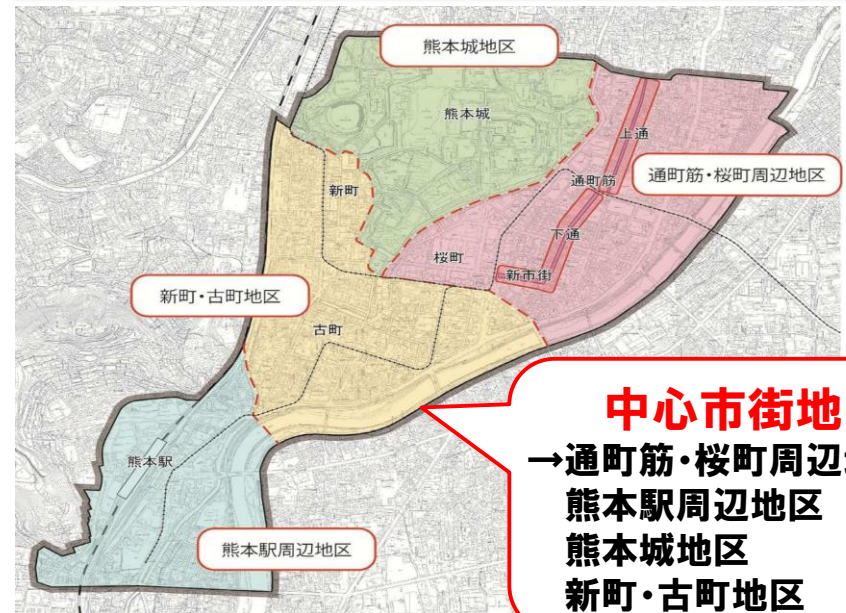
→熊本市中央区



本資料における“中心市街地”

中心市街地

→通町筋・桜町周辺地区
 熊本駅周辺地区
 熊本城地区
 新町・古町地区



本資料における“DID(人口集中地区)”

<凡例>
 ■ H27現在のDID

DID (人口集中地区)

DID(人口集中地区)

人口密度4千人/km²以上の単位地区が隣接して、人口5千人以上となる地区



資料: 国勢調査(H27)

資料: 熊本市中心市街地活性化基本計画(熊本地区)(第6回変更)

熊本市の都市構造の変遷

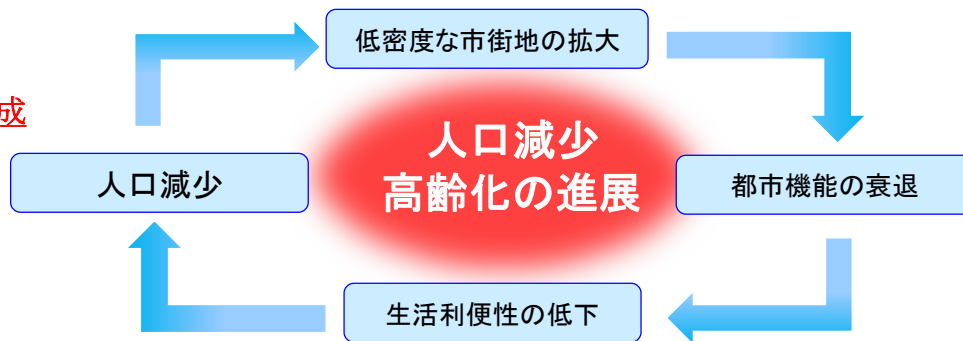
- 人口増加や車社会の進展を背景に、居住や商業・医療など都市機能の郊外化が進み市街地が拡大
- 人口減少、少子・超高齢化社会の到来、更なる進展により、経済活動を支える生産年齢人口が減少
- 自家用車の所有と利用が拡大した一方で、公共交通機関の利用者数が減少

現状を放置した場合に想定される問題

- ☞中心市街地の活力が低下し、都市としての存在感が薄れる可能性がある。
- ☞居住地周辺で日常生活に必要な買い物や医療などの都市サービスが身近で利用しにくくなる可能性がある。
- ☞公共交通のサービスが維持できなくなり車の免許を持っていない方等の移動手段が確保できなくなる可能性がある。
- ☞税収の伸び悩みが見込まれる中での都市経営コスト増加により、都市サービスが圧迫され都市活力が衰退する可能性がある。

都市づくりにおける課題

- 中心市街地や地域拠点等の都市機能の維持活性化
- 誰もが円滑に移動できる生活利便性の高い都市構造の形成
- 長期的な都市活力を維持
- コンパクトで持続可能な都市(多核連携都市)の構築
- 誰もが移動しやすく暮らしやすい都市づくりへ転換



熊本市第7次総合計画

めざすまちの姿

“上質な生活都市”

まちづくりの重点的取組

1 安心して暮らせるまちづくり

- ・安心して子育てができる少子化対策の推進
- ・子供たちがいきいきと育つ環境整備
- ・多様な世代が生きがいをもって暮らせるまちづくり
- ・お互いに支え合う地域のつながりづくり

2 ずっと住みたいまちづくり

- ・地域拠点に都市機能が集積した都市づくり
- ・市電やバスなどの公共交通と一体となった都市づくり
- ・地域経済を支える地場産業の振興
- ・安定した雇用の創出

3 訪ねてみたいまちづくり

- ・熊本の魅力の創造・発信
- ・国内外から多くの人が集う交流とにぎわいづくり
- ・世界が認めた地下水の保全と緑あふれるまちづくり
- ・安全で良質な農水産物の魅力発信

めざすまちの姿を効果的に実践していくための目標

第2次熊本市都市マスタープラン

都市構造の将来像

”豊かな水と緑、多様な都市サービスが
支える活力ある**多核連携都市**”

都市づくりの目標

基本目標Ⅰ

九州中央の広域交流拠点にふさわしい都市づくり

目標① 城下町の歴史と文化を活かした、魅力ある熊本づくり

- ◇中心市街地(熊本の顔)の活性化
- ◇魅力ある都市空間づくり

目標② 多様な交流を創出し、活力を生む基盤づくり

- ◇多様な交流を支える交通体系の確立
- ◇拠点(産業、暮らし)の形成
- ◇適正な土地利用

基本目標Ⅱ

誰もがいきいきと輝く暮らしやすい都市づくり

目標③ 自然と共生した、暮らしやすい地域づくり

- ◇自然環境の保全や生活空間におけるうるおいの創出
- ◇誰もが暮らしやすい生活基盤づくり

目標④ 皆で支え合う、安全で快適なまちづくり

- ◇災害に強い安全・安心なまちづくり
- ◇効率的・計画的な都市基盤の整備

熊本都市圏を取り巻く状況

- 人口の推移：横ばいから減少傾向
- DID(人口集中地区※)の拡大状況：
拡がりを見せるが拡大方向が限定的
- GDP(国(県)内総生産)：横ばい
- ライフスタイルの変化：
 - 生産力向上(労働力確保)のポテンシャルが高い
 - 若者があふれ、活気ある地域のポテンシャルが高い

熊本都市圏の交通状況

- 交通特性：中心部に集まりやすい都市構造
- 走行速度：中心部(DID内)での速度は
政令指定都市(3大都市圏除く)でワースト1
主要渋滞箇所数もワースト1
- 東西方向の移動： } 移動時間に大きなばらつきが発生
- 南北方向の移動： } (信頼性が希薄)
- 市内道路状況：
主要な路線が直線的・連続的に整備されていない
そのため交差点部で速度低下が発生
- 災害時：熊本地震発生時には、九州縦貫自動車道や
一般道等が寸断され、地域の交通(移動)がマヒ

熊本都市圏の課題

- 本州・海外からの玄関口が有効活用されていない！
- 市内アクセスにはラストワンマイルが課題！
- 市内中心部(東西軸・南北軸)の交通混雑緩和が課題！
- 災害発生時の代替性の確保が課題！

将来ビジョンの策定

新たな道路で描く未来の都市づくりシンポジウム(令和元年8月28日開催)

熊本大学 円山准教授より 問題提起

- ◆トラック輸送のニーズが高く、「物流を支える道路」を目指すこと
- ◆災害時に緊急車両が通行できる「災害に強い道路」を整備する視点も大切
- ◆熊本の魅力
 - ①九州の中心に位置、②歴史と自然に恵まれた城下町、
 - ③JR熊本駅や桜町再開発地区、④インバウンドの増加傾向、など
- ◆こうした魅力を道路の渋滞で損なわないこと
- ◆大胆な発想で交通の選択枝を増やすことが大切
- ◆公共交通や歩行者、自転車も交えて、最適化させること



パネルディスカッションでの様々な意見



- ◆おもてなしの目線からも交通事情が悪いので改善が必要
- ◆経済の発展には時間距離を短くすることが必須条件
- ◆広域的なネットワーク整備の観点からも道路整備が必要
- ◆観光アクセス・中心市街地アクセスの検討が必要
- ◆移動目的に応じた移動手段の選択枝を増やす必要がある

これらの意見プラス

次世代を見据えて

これからの時代、MaaSや自動運転も視野に考えるべき
 若い世代が活躍できるように、夢を描いて進むことが大切
 20年先の将来を描きながら取り組む



会場満員の約230名参加

時代の変化、チャンスを見極め、今後に活かしていくことが重要

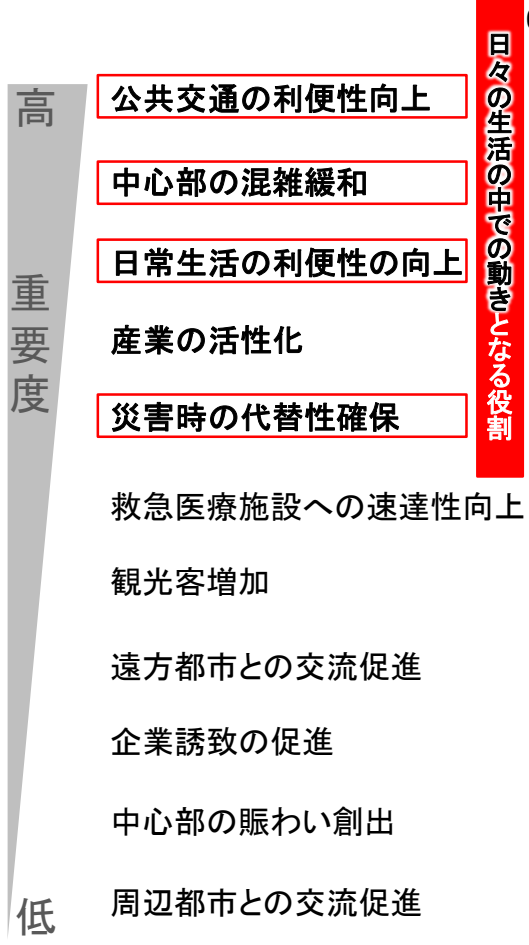
来場の皆様に

アンケート調査を実施

2. 熊本都市圏を取り巻く状況

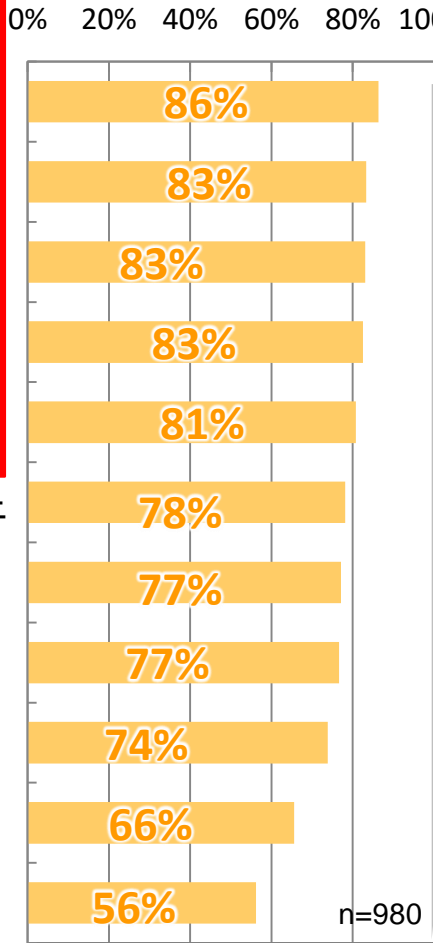
アンケート調査より得られた意見

道路が担う役割



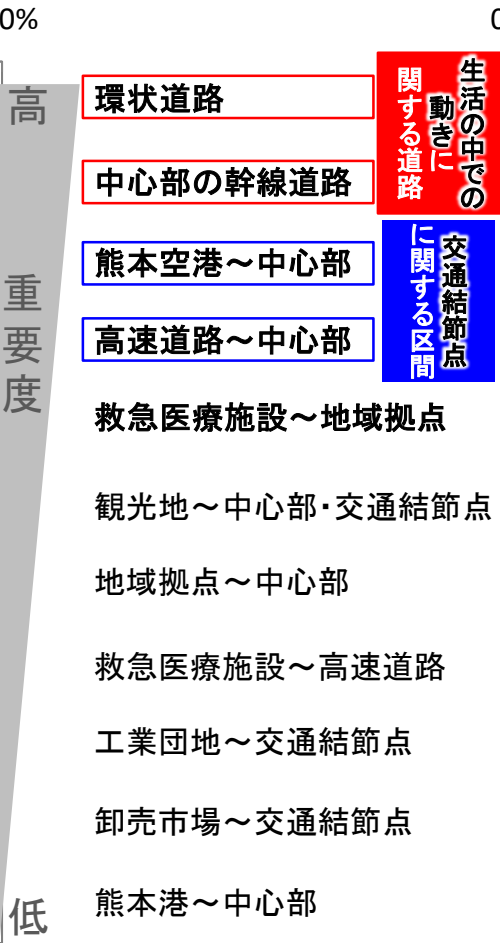
日々の生活の中での動きとなる役割

重視すると回答した割合



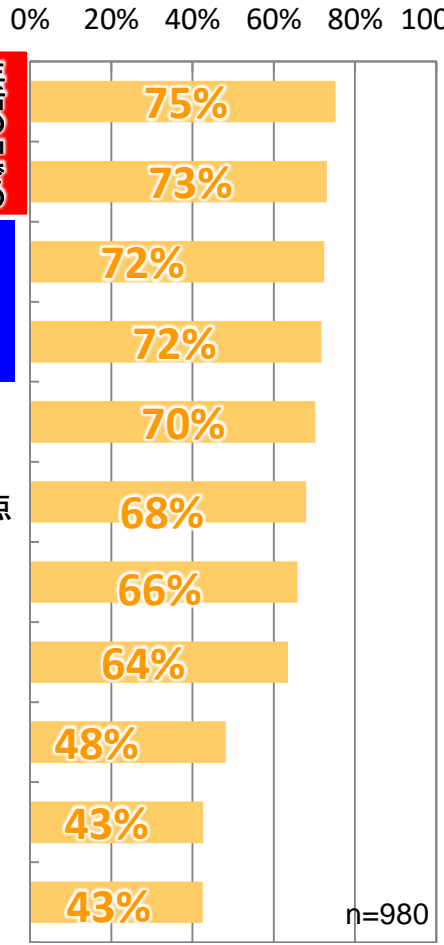
n=980

強化すべき区間



生活の中での動きに関する道路
交通結節点に関する区間

重視すると回答した割合



n=980

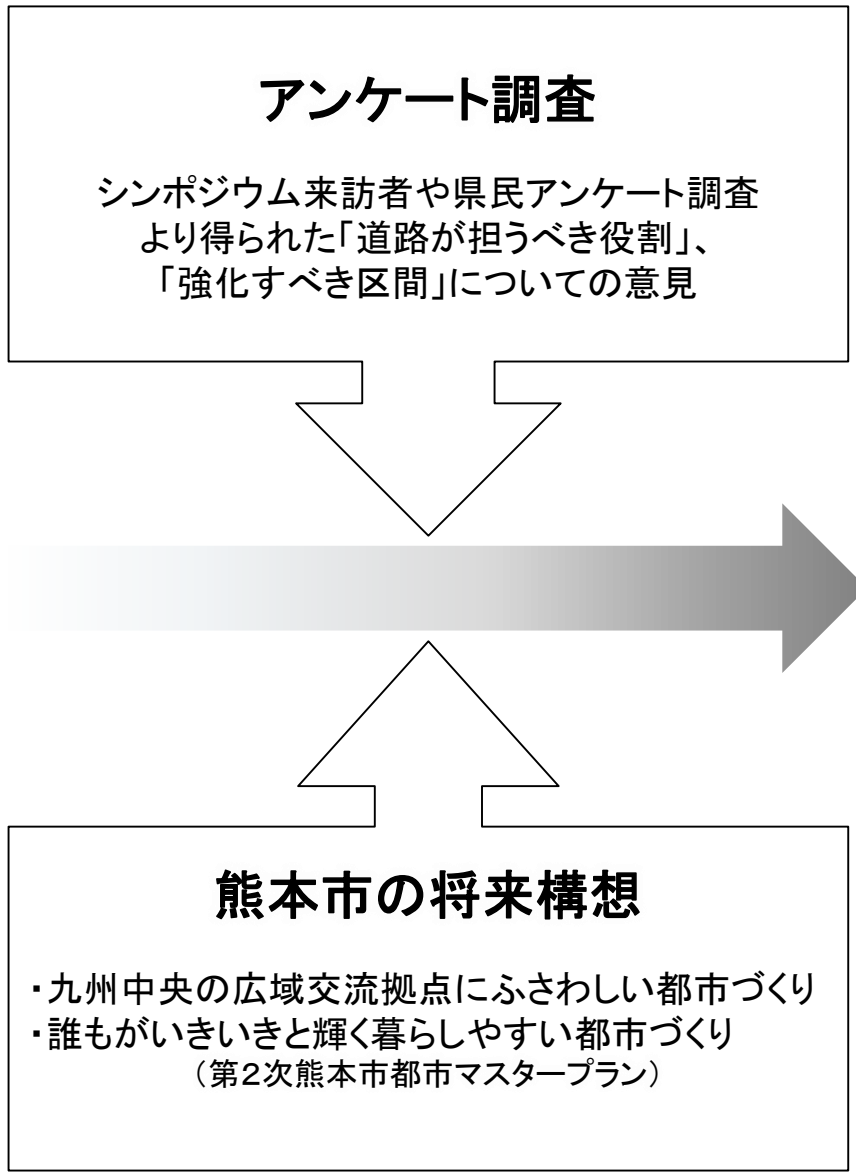
特に関心度が高いもの

日々の生活の中での動き

中心部と交通結節点のつながり

※シンポジウム会場でのアンケート調査結果とWEBアンケート調査結果を合算

- ### 熊本都市圏の課題
- 本州・海外からの玄関口が有効活用されていない！
 - 市内アクセスにはラストワンマイルが課題！
 - 市内中心部(東西軸・南北軸)の交通混雑緩和が課題！
 - 災害発生時の代替性の確保が課題！

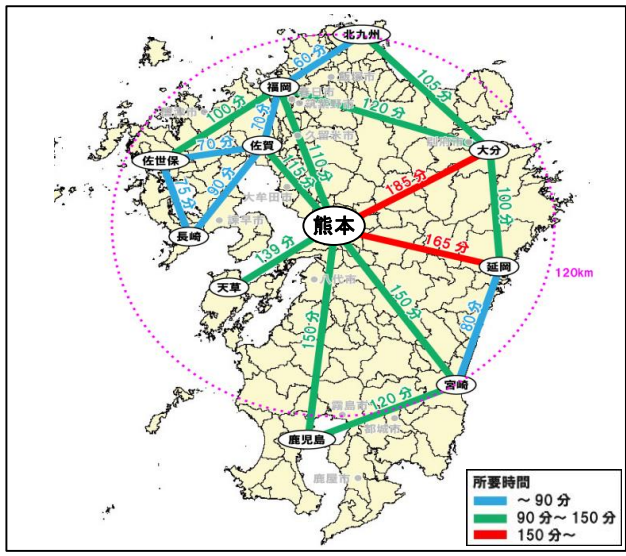


将来像を実現するために
必要な視点

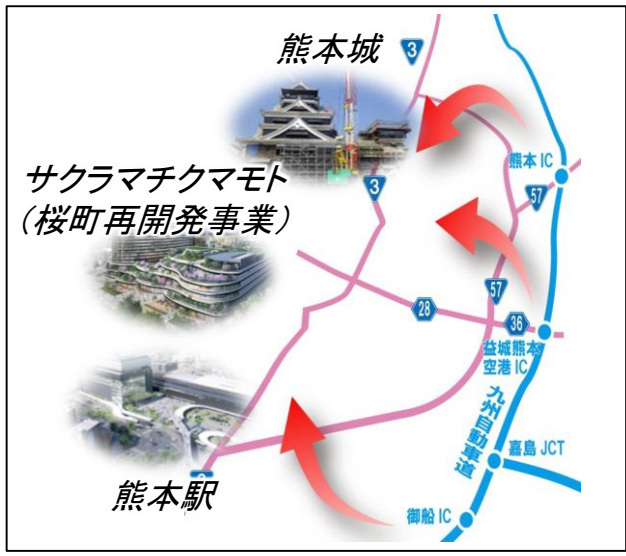
3. 新たな道路ネットワークの創造

将来像を実現するために必要な視点

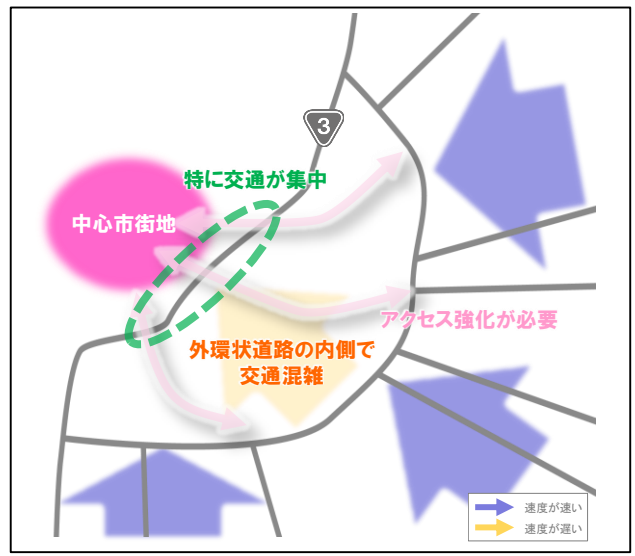
広域的な都市間連携



進化する街並み



慢性的な交通混雑



時代の変化に対応しながら、将来像を実現するために必要な視点

次の3つの視点を柱に、平常時・災害時を問わず、人流・物流を確保するため、定時性や速達性といった道路に対する信頼性の高い広域的な道路ネットワークのあるべき姿を示す必要がある。



九州の「へそ」

物流、産業、防災の視点



魅力高まる街並みへのつながり

空港や駅の拠点性の視点



便利な道路の使い方

都市内交通円滑化の視点

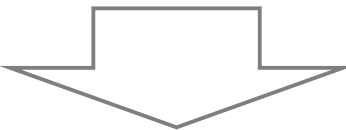
3. 新たな道路ネットワークの創造 将来像を実現するために必要な視点

九州の「へそ」
物流、産業、防災の視点

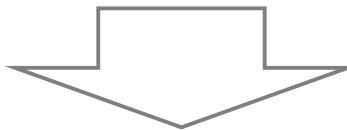
魅力高まる街並みへのつながり
空港や駅の拠点性の視点

便利な道路の使い方
都市内交通円滑化の視点

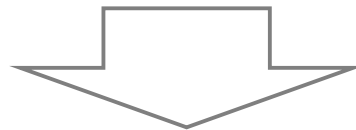
新しい道路とともに描く都市づくりの考え方



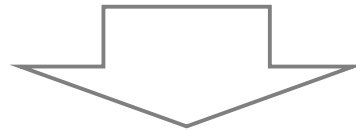
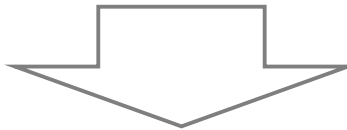
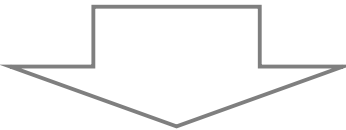
九州中央の広域交流
拠点都市



暮らしやすく
賑わいが創出された都市



多様な交通手段が
連携した都市



“真”に必要な新たな道路ネットワークを導く

九州中央の広域交流拠点都市

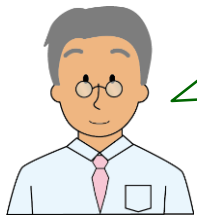
新たな“ひろがり”
～ 熊本市を中心とした連携軸を築く ～

交流人口の拡大

地域経済の活性化

災害時の広域支援
代替路の確保

循環性があり、災害に強い道路ネットワーク形成



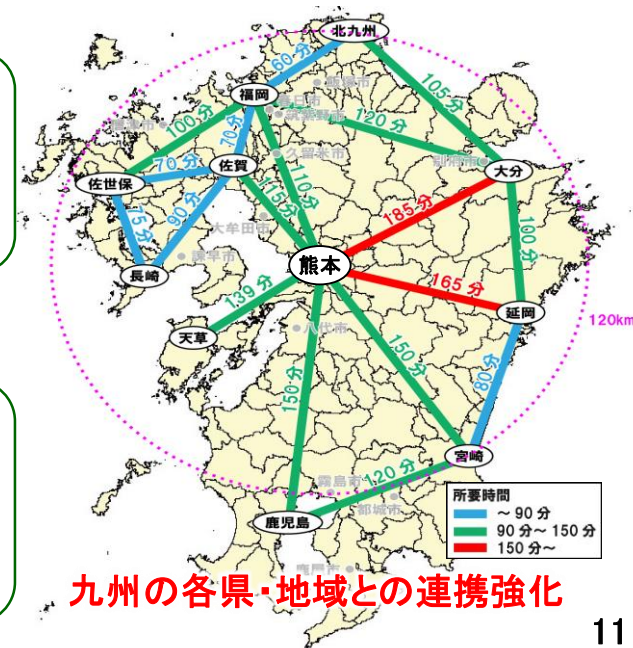
シンポジウム
委員の意見

- 熊本の魅力を活かして経済を発展させるといえるときには、市内までの時間距離を短くすることが必須条件。
- 物の流通を増やすことで熊本経済が発展していく。もっと整備が必要。



アンケート調査
自由意見

- 遠方からのアクセスは高速道路に集中するが、アクセス路（一般道）が弱く、時間が読みにくい。（県外 20代）
- 他県との広域連携の強化が必要。高速ICから市内へのアクセス強化を進めてほしい。（県外 40代）



4. 新たな道路の役割

暮らしやすく賑わいが創出された都市

新たな“つながり”
～熊本の玄関口との連結を強化する～

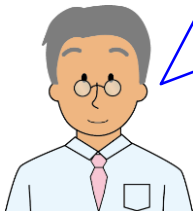
国内外の交流強化

地域経済の活性化

日常移動の
利便性向上

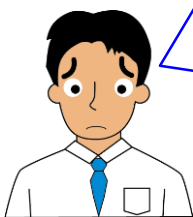
定時性・速達性を備えた道路ネットワーク形成

空港などの広域交通の拠点や結節点
と中心市街地のアクセス性向上



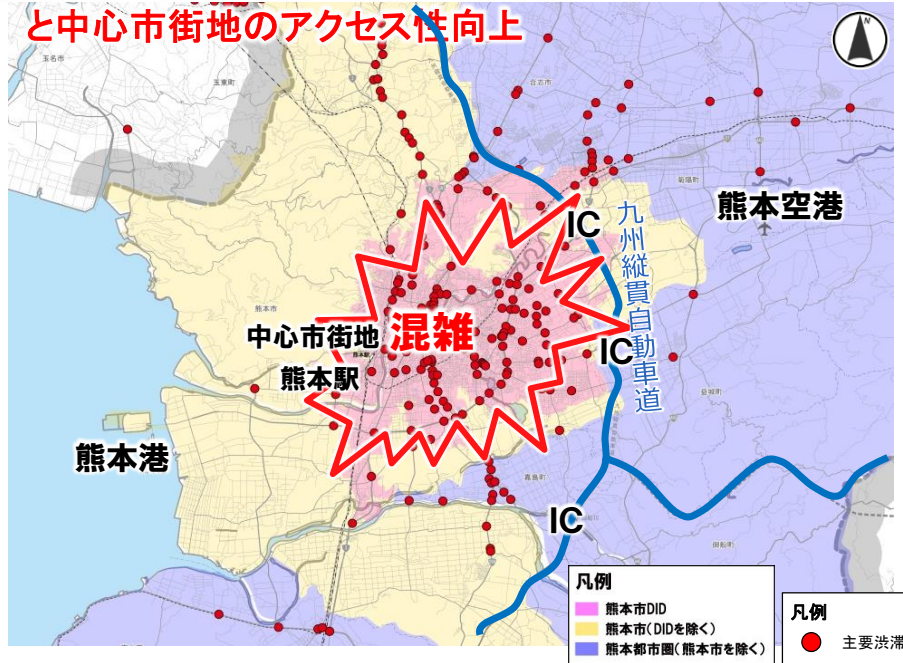
シンポジウム
委員の意見

- 空港と中心部がスムーズに繋がっていないことが熊本の問題。
- 特に九州縦貫自動車道から西側がまったくスムーズにいかない。



アンケート調査
自由意見

- 空港～熊本駅や中心部をつなぐ有料道路は必要だと思います。(合志市 20代)
- 九州縦貫道から中心市街地までの都市高速道路を作るべき。(熊本市 40代)



多様な交通手段が連携した都市

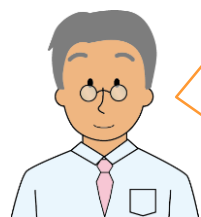
新たな“動きやすさ”
～“安全・安心で快適な移動”を支援する～

日常的な交通混雑の低減

地域経済の活性化

交通の選択肢の多様化

多様な交通モードの共存を目指した
交通マネジメントの形成や道路空間の創出



シンポジウム
委員の意見

- ・熊本市では、「目的地までの移動時間が読めない」「移動の選択肢がない」といったことが弱点。
- ・移動目的に応じた交通手段の使い分けができないことが熊本の弱点である。



アンケート調査
自由意見

- ・中心部へ向かう際に国道3号等
はいつも混んでいます。バス等
も遅れることが多いため、どう
にかしてもらいたいです。
(宇土市 50代)

多様な公共交通モードの利便性向上による
地域の魅力創出



熊本桜町バスターミナル付近

交通の課題解決に向けて

実現可能な対策について、国・県・市が役割分担しながら持続的に進めていく。

段階的な取り組みイメージ

